

平成三十一年度

# 適性検査型入学試験Ⅰ両国型

## 注意

- 1 問題は  のみで、5ページにわたって印刷してあります。
- 2 試験時間は四十五分で、終わりは午前九時四十五分です。
- 3 声を出して読むではいけません。
- 4 答えは全て解答用紙に明確に記入し、**解答用紙だけを提出**しなさい。
- 5 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- 6 **受験番号と氏名**を解答用紙の決められたらんに記入しなさい。

受験 番号		氏名	
----------	--	----	--

中村中学校



問題は次のページからです。

1 文章1と文章2を読み、あとの問題に答えなさい。

## 文章1

このごろ、「世の中の不平等についてどう思うか」とか「自殺が多いのをどう考えますか」とか、いろんなことについて意見をたずねられると、「そんなことは自分と関係ないから」といって、そっぽむいてしまう中学生・高校生が多いそうです。

5

わたくしは、この「自分と関係ない」という答えが、小さな人や、若い人の口から出るたびに、なんともいえない胸苦しきにおそわれます。「世の中のことは、直接自分と関係なく思われても、全部自分をふくめた問題」です。「無関係」だということは、根本的に、あり得ないまちがいですから。

10

それに、世の中がたとえゆがんでいても、同じ年ごろの人たちが、自殺したり苦しんだりしていても、「自分とは関係ない」といってしまえる人の心はさびしくて、すっかり美しいものがなくなった荒野の風景を連想させます。

15

「他の不幸は、自分と無関係」、そういう切る人は、そう

いう自分が、人間の不幸を作るものでもあることを知らないのでしょうか。うっかり気をゆるして、よその不幸に同情したら、自分にもわざわいがくるような気がして、反射的に目をふさぐのかもしれない。

20

「そんなに、勉強して、ほかのお友だちとはどうなの」と、わたくしも塾通いに熱心な小学校の五年生にたずねました。「人のことは気にしないでもいいんだよ。そんなこと気にしていたら何もできないから」と、明快に答えられて、とっさには次のことばができませんでした。

25

他の痛みは自分と「関係ない」という心は、逆に自分の痛みは痛がつて、それを友や、親や、先生や、社会など、他の責任にして八つあたりする心と、共存しているような気がします。同じことでも、解釈によって、自分の心を励ますこととできるのに、いつも、悪く悪く解釈して、逆うらみや、ねたみや、敵意でこわばってしまうのでは、自分で自分の人間としての成長をはばんでいるようなものです。

30

「それで、あなたは幸福ですか」。

そういう声が聞こえます。

35

「人のために何かする」という「何か」は、もとより「よいこと」「役に立つこと」「よろこびとなること」をさしています。どんな人の心の中にも、「人をよろこばせて自分もよろこぶ」人間らしいうれしい心があります。これは、「そんな気持、ちつともないよ」なんて、悪ぶっていばつてもだめです。必ず、自分の気づかない心の底に、宝物のように輝く美しい心が横たわっています。

それこそが人のよろこびをともによるこび、人の痛みをともに痛むことのできる、「人と人と」たがいの宝物でしょう。もし、まだそんな気持を味わったことがないと思えば、いなら、ぜひ、自分の中に眠っている、すこし鈍感で急げ者の宝ごころを掘り起こしてください。揺りさましてください。

「あ、こんな気持があったのか」「ちよつとうれしいなあ」。

お金もほしい。物もほしい。異性の関心もほしい。親の庇護や、先生の真心もほしい。けれど、そういうものより、何より、もつともつとうれしいのが、この「自分発掘の幸

50

福感」、いいかえてみると、「自分の悪意とたたかつて、自分を優しく気持のいい存在にきたえてゆくうれしき」だと思えます。

55

でも、この人間だけが味わえる、本能以上のよろこびは、不断の努力のあげくに、ふつと感じられるもの。このわずかな瞬間の、<sup>⑦</sup>深い感動が味わいたくて、人は、自分を訓練するのでしよう。

60

(岡部伊都子『心のふしぎをみつめて』筑摩書房)

生物や社会科の授業で、生徒たちは「人間は集団生活を営む動物である」と習います。動物の世界で言うなら「群れ」を作って生活するという事です。群れを作る動物と言えば、サルや象、イルカなどいろいろな動物が浮かびます。彼らは群れをなしながら、協力し合って餌を見つけ、外敵から身を守り、ねぐらを確保しています。個々の役割が決まっている群れもあるようです。もし、群れの中に、一匹でも群れ全体の利益を無視し、自分だけの利益を追求するようのがいたらどうなるでしょうか？ もはや群れは成り立ちません。それどころか、彼らは群れで生活するからこそ生き延びてこられた動物たちです。この先、「絶滅」ということも十分にあり得ることでしょう。

人間の生活も同様です。それはほかの動物以上です。役割を分担し、お互いができないことを補い合うことでいまの生活が成り立っています。昔ながらの言い方をすれば、「お互いさま」ということになります。労働と社会、そして人のありようを考えると、この「お互いさま」の感覚

を持つことが、これからはますます重要になってくると、僕は思っています。

### 〈中略〉

「お互いさま」という言葉は、別の見方をすれば、「自立」を意味する言葉になります。「お互いさま」というのは、自分でやれることは自分でやり、できない部分は協力して助け合おうという姿勢で人と付き合う態度のことです。これはまさに「自立して生きる」こととまったく同じです。

この「お互いさま」の視点で現代社会の「労働」問題を見直してみます。教科書的に言うと、「労働」は有償の「職業労働」と無償の「家事労働」に分類されます。そこに別項目として「ボランティア労働」が付け加えられることもあります。でも、「群れで生活しているわれわれを支えるために営まれる行為」Ⅱ「労働」と考えれば、職業労働にしろ家事労働にしろボランティアにしろ、どれも大切な労働であって、そこにはなんの優劣もないことがわかります。「みんな社会を支え合っている」現実があるだけです。







以下白紙です。